

令和6年度 自己評価・学校関係者報告書

令和7年5月30日

みゆき西こども園

1. 本年度の教育目標

【みゆき西こども園】

- (1) 豊かな人間性の基礎作りをする。
- (2) 子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、乳児期に生きる力の基礎を育む。
- (3) 思いやりのある豊かな心を育てる。
- (4) 物事に敏感に反応し、節度ある態度や姿勢を育てる。
- (5) 意欲を高め自己発揮できるようにする。

2. 重点に取り組む目標・計画

- | | | |
|----------|----------|---------------|
| ○教育課程の改善 | ○教育環境の整備 | ○子どもの成長記録の可視化 |
| ○教員の資質向上 | ○安全・健康管理 | |

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの状況
教育課程の改善	B	認定子ども園教育・保育要領、教育目標、乳幼児の発達や生活の連続性を踏まえ、年間計画、週日案・個別指導計画を定期的に話し合い、計画的に日々の教育・保育活動を進めることができた。新園舎での教育・保育が本格的に開始され、環境の変化を活かした新たな取り組みを積極的に実施できた。園児の実態、保護者の要望を丁寧に把握し、園外保育や行事をより充実した内容に発展させることができた。
教育環境の整備	B	新園舎の環境を最大限に活用し、乳幼児が自発的、能動的に活動できるよう創意工夫を重ねた環境構成を実現できた。各クラスでの遊具の充実と遊びコーナーの工夫により、子どもの発達に必要な体験がより豊かになった。 保育環境スケールの理解を深める研修を実施し、乳幼児一人ひとりが周囲の環境に主体的に働きかけることができる環境づくりに改善が見られた。 自園方式による完全給食を継続し、給食委託業者との月例打ち合わせを通じて給食の質をさらに向上させ、食育活動も充実させることができた。 育児担当制の取り組みを深化させ、園児一人ひとりの個性や発達特性への理解がより深まり、きめ細かい個別対応を実現できた。

教員の質的向上	A	保育教材や保育指導案について各クラス単位で定期的な話し合いを持ち、共通認識を深めて取り組みを進めることができた。「自分で考えて自分で行動する子ども」を意識したカリキュラム作成と実践に重点的に取り組んだ。 園内外の研修会、研究会等への積極的な参加により、最新の教育・保育理論や実践方法を学び、日々の保育に活用することができた。
安全・健康管理	A	新園舎での安全管理体制を確立し、施設、設備、遊具等の安全点検を徹底して実施した。子どもたちへの危険防止の言葉かけや安全教育をより体系的に実施できた。 怪我や事故が発生した場合の対応システムが定着し、園長への報告、看護師による視診、保護者への迅速な連絡、医療機関受診等の適切な処置を確実に行った。ヒヤリハット事例の共有と分析により、事故防止対策がより効果的になった。 年間の災害・防火訓練実施計画に基づき、様々な災害を想定した避難訓練を計画的に実施した。消防隊員による園児への安全指導を継続し、防災意識の向上を図った。

評価（A：十分成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	4つの項目について重点的に取り組んだ結果、前年度の課題であった教育環境の整備において大幅な改善が見られ、新園舎の環境を活かした質の高い教育・保育を実現することができた。教育課程の改善では、新しい環境での実践を通じて更なる発展を遂げることができた。教員の資質向上においては、「自分で考えて自分で行動する子ども」を意識した継続的な話し合いにより、園で育てたい子ども像の共通理解を深めることができた。安全・健康管理では、新園舎での安全管理体制の確立により、より安心・安全な保育環境を提供できるようになった。全体として、前年度の実績を基盤として、各項目において成果を上げることができた。

評価（A：十分成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
教育環境の整備	子どもたちの発達を促すことのできる、より良い環境を提供できるようにする。子どもたちが興味や関心をもって主体的に関われる環境を構成し、各クラスにおいても遊具の充実を図り、遊びコーナーを創意工夫していきたい。保育環境スケールを実施する意図の共通理解を深め、乳幼児一人ひとりが周囲の環境に働きかけ、興味や関心を持って関われるような環境づくりの改善に努めたい。
教員の資質向上	一人ひとりの発達の特性を理解し、個別の対応や集団での活動など、計画的に環境を構成し、カリキュラムを作成し、保育・教育活動をより充実さ

	せたい。小学校生活に対して期待を持つことができるよう、育てたい能力や資質としての「3つの柱」や自立心、共同性、思考力の芽生えなど「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」をもとに乳幼児の保育の充実を図っていききたい。積極的に園内外の研修会、研究会等に参加し教育・保育の向上に努めていききたい。
情報管理システムの改善	従来の USB メモリ等を使用した個別のファイル管理から、クラウドサービスを活用したファイル共有システムへの移行を進める。園内での情報共有の効率化、セキュリティの向上、災害時のデータ保護等を目的として、適切なクラウドサービスの選定と運用体制の整備を行う。同時に、職員に対するクラウドサービス活用のための研修を実施し、デジタル化による業務効率の向上と情報管理の安全性確保を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価

【保護者の評価】

- ・子ども達がワクワクする環境構成が継続して行われ、新園舎での生活にも慣れ、子どもが毎日登園を楽しみにするようになった。
- ・新園舎での保育が本格的に始まり、広々とした園庭で子どもたちが伸び伸びと活動できるようになって良かった。
- ・新園舎の駐輪スペースが広くなり、行事の際にも駐輪可能となり参加しやすくなった。駐車スペースについても今後検討していただきたい。
- ・イロドリリンク(ICT)の活用がさらに進み、写真付きの保育の様子や行事の連絡をリアルタイムで受け取れるようになり、園での子どもの姿が分かりやすくなった。各行事実施後にもアンケートが行われ、保護者として意見を伝える機会があることがありがたい。
- ・迎えの際に、保育の様子について先生が具体的に丁寧な説明をしてくれ、家庭での関わり方のヒントももらえて良かった。
- ・子どもが発熱した時のルールについて、イロドリリンクでも確認できるようになり、口頭と文面の両方で説明を受けられ、分かりやすくなった。
- ・保育の中で子ども達の個性を大切に工夫がなされ、子どもの集中力や主体性が育っていると感じた。
- ・各クラスに手作りとしりゃんのおもちゃがバランスよく配置され、子どもの発達段階に応じて工夫されていて、子どもが飽きることなく遊べている。
- ・保育に「10の姿」を意識した年齢ごとのねらいが明確に設定されていた。公開保育で実際の日常保育を参観でき、子どもの成長の様子がよく分かった。
- ・職員の交代の際に丁寧な説明を受けた。
- ・気になることがあり園に相談したところ、迅速に対応を検討し、保護者への働きかけもしてもらえ、問題解決に向けた連携ができた。
- ・保育の様子が写真で見やすく掲示されており、迎えの時に写真を見ながら子どもが園での出来事を楽しそうに詳しく話してくれるようになった。
- ・感染症の分類変更を受け、園の行事がより充実して行われるようになり、子どもの成長を見る機会が増えて良かった。

【学識経験者による評価】

- ・地域性を理解し、子どもや家庭の課題に配慮しながら、新しい環境を活用した保育・教育を展開しようと努力している。
- ・保育者独自のアイデアを活かしながら意欲的に保育環境を整えようとする姿勢が育っている。
- ・園内外の実践者との交流を意識した研修を企画し、若手保育者の育成に力を入れている。
- ・教職員と家庭とが連携しながら課題解決に向けて迅速な対応につとめている。

財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。